会誌編集委員会

Number 19

女子部

女性研究者の苗字のあれこれ～その２

国立情報学研究所　坊農 真弓

2014 年 7 月，初めて女子部に話題提供させていただいたトピックの第 2 弾です．私事で恐縮ですが，2015 年 4 月，科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞をいただきました．こういった受賞は，本当に励みになります．受賞当日には実家から父親もやってきて，式典に参加してくれました．さて，このとき，「女性研究者の苗字」について興味深い出来事があったので，ご報告します．受賞の 1 カ月前，受賞内定の通知を受けた際，いくつか書類の提出を求められました．その中に，「氏名字体票」という書類がありました．そこには，「一　氏名の字体は，戸籍抄本に基づき，楷書で大きく手書きで記載してください」「二　賞状には戸籍姓名を表記します．特段の事情により旧姓を希望する場合は，その旨備考欄に記載してください」といった文言がありました．一の文言の「戸籍抄本に基づき」の部分などには下線が引かれていたり，二の文言はすべて赤字で強調されていたので，ちょっと躊躇しましたが，素直に「坊農真弓」と書きました．備考欄に，「研究活動ではすべて旧姓を使用しているため，旧姓による表記を希望する（旧姓は戸籍抄本に記載があるためご確認ください）」と添えて．

きっと受賞までに事務の方といろいろやりとりがあるんだろうなと思っていたら，意外にも何の連絡もなく，受賞当日を迎えました．受付で受賞者であることを申し出て，座席表，受賞者一覧の冊子，メダル，賞状の筒などを受け取ります．座席表を見たら，「坊農真弓」が見つかりません．あれ？と思って戸籍の苗字で探してみるとありました．また，受賞者一覧の冊子には戸籍苗字の後ろにカッコ書きで「坊農」の文字がありました．この時点で，これはきっと賞状も戸籍の苗字だろうなと覚悟を決めていたんですが，アイウエオ順でなされる授与の際，文部科学省の方に呼んでいただいたのはなんと「坊農」の姓でした．少々予想を覆されたまま呆然としている間に賞状を受け取りました．賞状にはキチンとした毛筆で「坊農真弓」と書かれていました．また，授与を担当されていた文部科学省の方がそこに書かれている研究テーマを見てくださり，「これは大事な研究ですね．頑張ってください」と小声で励ましをくださるという嬉しいこともありました．

何もかも初めての体験でしたが，100 人近くもの若手研究者に短時間で賞状を手渡すという大変な作業において，私が旧姓を使いたいという個人的な要求をここまですんなり受け入れてくださったことに，とても感激しました．それと同時にきっとここに至るには，これまで受賞された旧姓使用の方やその事務の方の努力があったのだろうと思います．そのことに思いを馳せながら，会場を後にしました．

同時に受賞した知り合いには，「座席表を見ても坊農さんの座席位置が分からなかった」などと言われましたが，賞状に書かれている名前は常に私が研究者として使っているものです．いまこの瞬間も額縁におさめられた賞状を何の違和感もなく眺めて，日々研究で行き詰まったりしている自分を奮起させることができるのは，本当に幸せなことだと思います．

この記事がいずれ過去のものとなり，次の世代，その次の世代に「結婚したら苗字変えるしかなかったんだ」「旧姓を堂々と使えない時代があったんだ」と驚かれるくらいになればいいなと願っています．